

アーバン・ハウジング・フォーラム

平成 27 年度第 2 回開催報告

～災害時の生活継続を目指したまちづくり～

2011 年の東日本大震災では深刻な避難所不足により、建物被害が軽微だったマンションの居住者は、停電・断水の中、自宅での生活を余儀なくされました。その後、多くの自治体で建物が堅牢なマンションの居住者は地震後も「在宅避難」を求められるようになっていきます。しかしマンションでの生活継続(LCP)には、火災・負傷等二次災害の防止に加え、ライフライン停止の中での移動、水・食事の確保等、多くの困難が伴います。

今回は具体的な再開発事業「新宿西富久町プロジェクト」を通して、災害時の生活継続を目指したまちづくりについて、芝浦工業大学システム理工学部 環境システム学科 准教授 増田 幸広様からご講演いただきました。

記

テーマ：「災害時の生活継続を目指したまちづくり」

～「新宿西富久町プロジェクト」を通して～

講師：芝浦工業大学システム理工学部 環境システム学科 准教授

増田 幸宏様

日時：平成 27 年 9 月 29 日（火） 15:00～17:00

場所：協会会議室



ご講演は「新宿西富久町プロジェクト」を通して

1. 建築・都市のレジリエンス
2. 災害に対するレジリエンス～防災・減災の考え方の転換期
3. コミュニティで共有する防災・減災情報システム

について行われ、

特にレジリエンス・・・「環境変化を乗り越えるしなやかな力」を表す新しい概念を、持続可能性の必要条件ととらえ、様々な環境条件の変化や不測の事態に直面した際にどのように切り抜けるのか、変動要素、リスクにどう対処し、対応力を高めていくのか、時代のうねりをどう乗り越え、様々なバランスをどのように保つのかをわかり易くご説明いただきました。

(参加者 16 名)

一般社団法人 新都市ハウジング協会

担当：岩本

TEL：03-3504-2381 FAX：03-3504-1018 E-mail：koho@anuht.or.jp